

天星製油株式会社

環境経営レポート

第40期 Vol. 21.0

(2023/11/1~2024/10/31)

産廃処理業者向けガイドライン2017準拠



2024年11月18日

目次

1. 組織の概要	2
2. 許認可	4
3. 事業における課題とチャンス	7
4. 環境経営方針	8
5. 環境経営目標の実績	9
6. 環境経営計画の取組結果・評価	12
7. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果、違反、訴訟等の有無	17
8. 環境経営目標	18
9. 環境経営計画	19
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	20

<改訂履歴>

Vol. 21.0 2024年11月18日 作成

1. 組織の概要

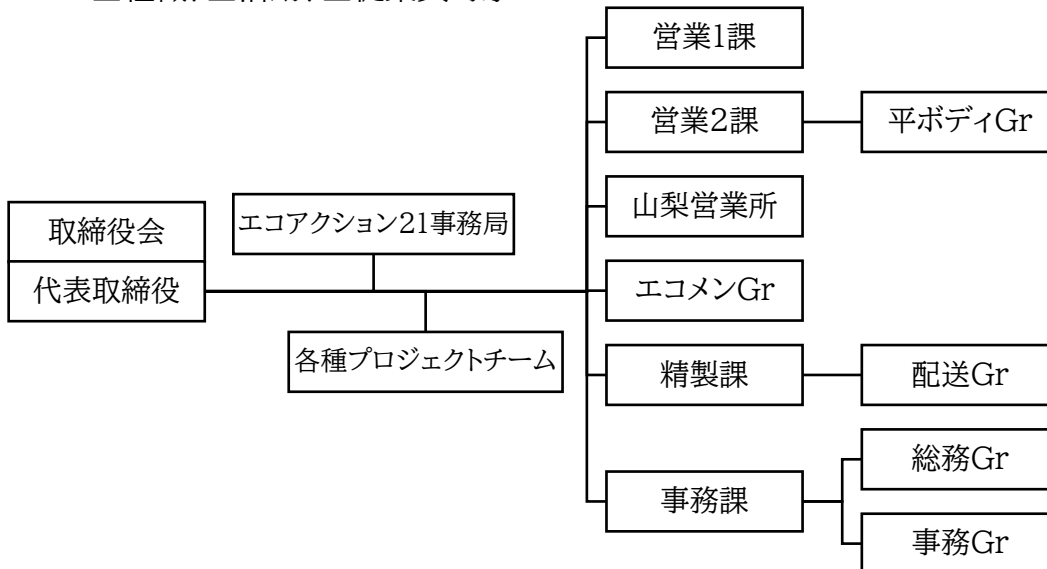
1. 事業所名 天星製油株式会社
2. 代表者名 代表取締役 鈴木宏政
3. 法人設立 1984年11月1日
4. 資本金 1,000万円
5. 事業所 本 社 静岡県浜松市浜名区新原3833-1
山梨営業所 山梨県笛吹市一宮町国分1284-1
若草油槽所 静岡県浜松市浜名区寺島652-1
資材置き場 静岡県浜松市浜名区新原3903
第一駐車場 静岡県浜松市浜名区新原3927-1,6,7,8
南武事務所 静岡県浜松市浜名区新原3922-1
6. 連絡先 Tel …… 053-586-9911
Fax …… 053-586-9915
Mail …… entry@tenboshi.com
HP …… <https://www.tenboshi.com/>
7. 環境管理責任者 代表取締役 鈴木 宏政
8. 事業内容 廃油買取
再生重油・再生潤滑油の委託・再生及び販売
産業廃棄物の処理
(廃油、廃油水、汚泥、オイルエレメントの収集・運搬及び処分)
メンテナンス事業
(油槽等の清掃、漏洩検査、タンク撤去・設置等)
漏油事故処理
防災用品販売
(吸着マット、土壌処理剤の販売)

9. 事業の規模

項目 (単位)	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
	2019年11月 ~2020年10月	2020年11月 ~2021年10月	2021年11月 ~2022年10月	2022年11月 ~2023年10月	2023年11月 ~2024年10月
従業員数 (人)	53	52	56	58	63
売上高 (百万円)	730	797	950	1,046	1,060
車両台数 (台)	56	56	58	58	58
油保管容積 (kL)	1,435	1,435	1,435	1,445	1,554
敷地面積 (m ²)	14,966	14,966	15,740	15,830	15,830
床面積 (m ²)	970	970	970	1,154	1,154
収集・運搬量 (t)	6,484	6,723	6,775	6,992	6,825
中間処分量 (t)	6,474	6,709	6,680	7,011	6,819

10. 認証・登録範囲

全組織、全活動、全従業員対象



役割	責任及び権限
代表取締役	環境経営方針の設定、環境管理責任者の任命・指示、環境経営目標・環境経営計画・環境経営マニュアルの承認、経営における課題とチャンスの明確化、全体の評価・見直し
環境管理責任者	Ea21活動の責任者(事務局内)、Ea21職場会議リーダー・事務局員・訓練委員の任命、目標・計画の決定、システムの確立・実施・維持、環境法規制の遵守評価
Ea21事務局員	環境経営目標・環境経営計画・環境経営マニュアルの作成、環境負荷及び取り組み状況の把握、環境経営レポート作成、職場会議総括及び基礎資料の作成、Ea21リーダー会議企画
Ea21職場会議リーダー	職場会議の目標設定・日程調整・進行・取りまとめ、職場会議レポート作成、日常的な取り組みの啓発
訓練委員	訓練の企画・実行・総括、システムの構築、機材の用意
全従業員	環境経営方針の理解、環境経営目標達成のためにPDCAを回す
職制リーダー	課員がEa21活動を行うための時間、労力を確保できるように配慮する

2. 許認可

1. 産業廃棄物処理業の許可の内容

◆ 収集運搬業

< 普通産業廃棄物 >

自治体 (◎:優良認定)	許可番号	許可年月日	有効年月日	積替 保管	産業廃棄物の種類					
					廃油	廃アルカリ	汚泥	金属くず	廃プラスチック類	廃酸
静岡県	◎ 第02201002575号	2021年7月31日	2028年7月30日	無	○	○	○	○	○	—
愛知県	◎ 第02300002575号	2023年3月10日	2030年3月9日	無	○	○	○	○	○	—
山梨県	◎ 第01915002575号	2023年8月24日	2030年8月23日	有/無	○	○	○	○	○	—
岐阜県	◎ 第02100002575号	2023年8月29日	2030年8月28日	無	○	○	○	○	○	—
神奈川県	◎ 第01405002575号	2024年6月20日	2031年5月31日	無	○	○	○	○	○	○
東京都	◎ 第1300002575号	2024年6月1日	2031年5月31日	無	○	—	—	—	—	—
長野県	◎ 第2009002575号	2024年6月13日	2031年6月12日	無	○	○	○	○	○	—
三重県	◎ 第02400002575号	2024年7月24日	2031年7月20日	無	○	○	○	○	○	—
滋賀県	◎ 第02501002575号	2020年5月26日	2027年4月27日	無	○	○	○	○	○	—

・全ての自治体で優良認定取得

< 特別管理産業廃棄物 >

自治体 (◎:優良認定)	許可番号	許可年月日	有効年月日	積替 保管	産業廃棄物の種類
					引火性廃油
静岡県	◎ 第02251002575号	2022年4月5日	2029年4月4日	無	○
山梨県	◎ 第01965002575号	2022年8月23日	2029年8月22日	有/無	○
愛知県	◎ 第02350002575号	2022年10月7日	2029年10月6日	無	○
神奈川県	◎ 第01455002575号	2023年6月14日	2030年6月13日	無	○
長野県	◎ 第2059002575号	2021年12月13日	2028年12月12日	無	○
岐阜県	◎ 第02150002575号	2022年3月3日	2029年3月2日	無	○
三重県	◎ 第02450002575号	2022年3月6日	2029年3月5日	無	○
千葉県	◎ 第01250002575号	2023年6月26日	2030年6月25日	無	○
滋賀県	◎ 第02551002575号	2024年2月20日	2029年2月19日	無	○

・滋賀県で新規取得、他の自治体は全て優良認定取得

◆ 処分業

種類	自治体 (◎:優良認定)	許可番号	許可年月日	有効年月日	事業区分	産業廃棄物の種類
普通	浜松市	◎ 第06321002575号	2021年8月6日	2028年8月5日	中間処分	汚泥、廃油、廃アルカリ、 金属くず、廃プラスチック類
特別 管理	浜松市	◎ 第06371002575号	2022年4月5日	2029年4月4日	中間処分	引火性廃油

2. 産業廃棄物処理施設等の状況

◆ 収集運搬車両の種類と台数

タンクローリー(2kL) …………… 1台	平ボディ車……………6台
タンクローリー(4～8kL) …… 23台	吸引車 ………………4台
タンクローリー(8kL超) …… 9台	計43台

◆ 積替保管施設(山梨営業所)の面積と保管上限量

面積…………… 106.83 m ²			
廃油…………… 64.0m ³	引火性廃油… 21.0 m ³	廃プラスチック類…13.0 m ³	
廃アルカリ…… 19.0 m ³	汚泥 …………… 13.0 m ³	金属くず …………… 13.0 m ³	

◆ 処理施設の種類、能力および処理する産廃の種類

< 普通産業廃棄物 >

処分方法	処理能力	産業廃棄物の種類
油水分離①(遠心分離)	305 kL/日	廃油、汚泥
油水分離②(遠心分離)	154 kL/日	廃油、汚泥
油水分離(重力中和)	60 kL/日	廃油、汚泥
蒸発濃縮	360 kL/日	廃油、廃アルカリ
混合	352 kL/日	廃油、廃アルカリ
ろ過	19.2 kL/日	廃油
切断・圧縮	3.8 t/日	金属くず、廃プラスチック類
脱水	35 kL/日	廃油、汚泥

< 特別管理産業廃棄物 >

処分方法	処理能力	産業廃棄物の種類
油水分離①(遠心分離)	305 kL/日	引火性廃油
油水分離②(遠心分離)	154 kL/日	引火性廃油
油水分離(重力中和)	60 kL/日	引火性廃油
混合	352 kL/日	引火性廃油

3. 産業廃棄物処理の料金

サンプル分析や排出工程の調査、SDS、WDS等により検討し決定する。

4. 処理方式及び処理工程



3. 事業における課題とチャンス

	事業における課題 (事業上の弱み、問題点等)	事業におけるチャンス (事業場の強み、有利な点等)
社内	<ul style="list-style-type: none"> ・人材に対する適切で継続的な教育 ・緊急事態への対処 ・自社のカーボンニュートラル推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験と実績で積み上げてきた地域に根付いた信頼 ・技術や知見を集積させた従業員の力 ・廃油再生に対応した設備・資産
社外	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル業界の前提(物質循環の環が途切れない、発生先と処理後の受入先のバランス崩壊が無いこと) ・カーボンニュートラルの動き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンスタンド、自動車整備工場、一般製造業等、定期的に廃油が発生する堅実な市場 ・廃油リサイクルに対する地域産業の期待 ・カーボンニュートラルの動き

重点目標

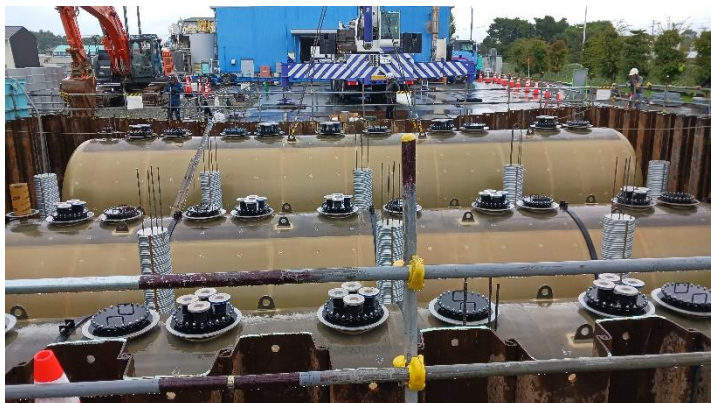
事業における課題であり、チャンスでもある「カーボンニュートラルの推進」、特に二酸化炭素排出量の削減に引き続き重点を置いて活動に取り組む。

第40期から始まった構内工事は第41期前半に完了する。完了後は大幅な二酸化炭素排出が見込まれるが、それだけに頼らず、全社員一丸となって削減に取り組んでいく。

2024年10月

地下タンク埋設工事の様子

唐突



本社敷地内南側に地下タンクを増設する為、100kLタンク3基の埋設工事を実施した。

4. 環境経営方針

<基本理念>

1. 当社は「廃油リサイクルの専門家」として、廃油のリサイクル、産業廃棄物の処理、油関連設備等のメンテナンスの事業活動を通じて地球の環境保全に貢献する。
2. 自らの事業においても環境との調和、自然との共生に配慮し、すべての部署で環境の保全・向上に対して積極的・継続的な活動を展開する。
3. エコアクション21ガイドライン(業種別ガイドライン)に基づいた環境経営システムを構築、運用、維持する。

<行動指針>

1. 廃油のリサイクルシステムの普及、改善、安定化に継続的に努力する。
2. 環境関連の法律、規制、我々が同意するその他の要求事項を遵守する。なかでも廃棄物処理法には最大の注意をする。
3. 自他の環境事故、特に火災、漏油に対して、予防対策、事故処理訓練を実施する。
4. 省エネルギー、省資源、環境保全を全ての活動範囲で取り組む。特に収集運搬車両のエコドライブ、燃費削減、排気ガスの削減に心がける。
5. 地球温暖化ガスの発生抑制に努める。
6. 周辺環境、地域社会との共存に努力する。
7. 環境教育、情報の収集等により、見識を高め、全社員が環境経営方針をはじめ環境経営目標、環境経営計画を理解したうえで行動に落とし込む。
8. 職場の作業環境の向上、具体的には、安全衛生面、平易化、効率化、見える化に努力する。
9. 当社より排出する廃棄物の削減に努力する。
10. これらに基づいて環境経営目標、環境経営計画を定め、定期的に見直し、環境経営の継続的改善に努める。



制 定 日 2005年3月5日

最終改定日 2023年9月1日

天星製油株式会社

代表取締役 鈴木宏政

5. 環境経営目標の実績

1. 第40期 環境経営目標の実績

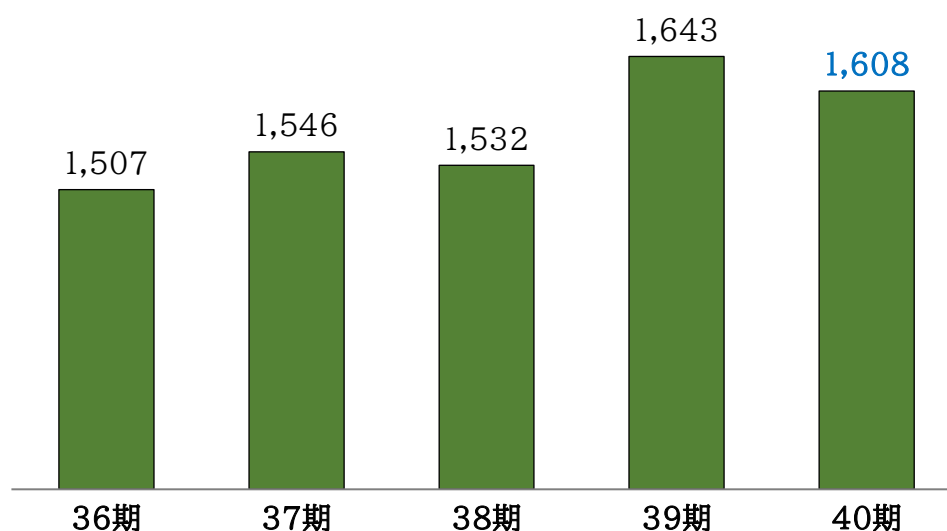
項目	単位	39期 基準値	40期 <目標:基準対比100%以下>			
			目標値	実績値	基準対比	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,643,227	1,643,227	1,608,050	97.9%	○
電力1(本社)	kWh	333,308	333,308	319,726	95.9%	○
電力2(山梨)	kWh	1,713	1,713	1,632	95.3%	○
ガソリン	L	10,176	10,176	10,405	102.3%	×
軽油	L	269,448	269,448	267,147	99.1%	○
A重油	L	293,077	293,077	284,058	96.9%	○
液化石油ガス	kg	35.4	35.4	27.7	78.4%	○
一般廃棄物排出量	kg	1,707	1,707	1,818	106.5%	×
産業廃棄物排出量	kg	2,713,565	2,713,565	2,745,560	101.2%	×
うち再資源化量	kg	94,690	-	89,940	-	-
水使用量 上水	m3	426	426	499	117.1%	×
地下水	m3	11,346	11,346	8,382	73.9%	○
化学物質使用量(メチルナフタレン)	kg	18.1	18.1	17.5	96.9%	○
業務を通じた環境面での社会貢献		シェアの拡大、効率化推進、再資源化の推進 等				○
地域貢献・社会貢献		地域活動への参加、グリーン購入の推進 等				○

※電力の二酸化炭素調整後排出係数は下記を使用した。

本社……………0.388kg-CO2/kWh(中部電力ミライズ、2021年度実績)

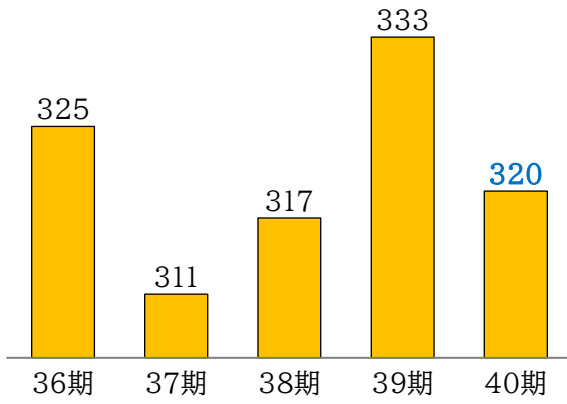
山梨営業所 ……0.452kg-CO2/kWh(ENEOS でんき、2021年度実績)

二酸化炭素排出量の推移 (t-CO2)

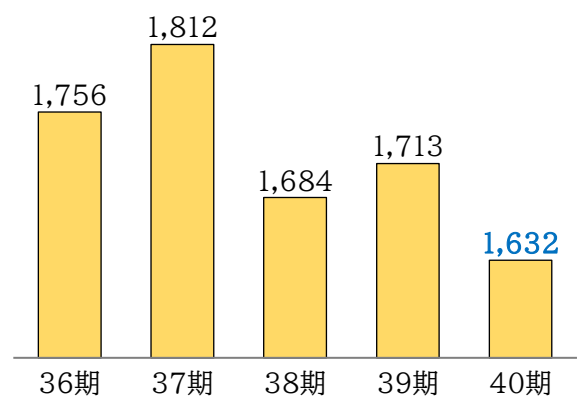


2. 各項目の推移

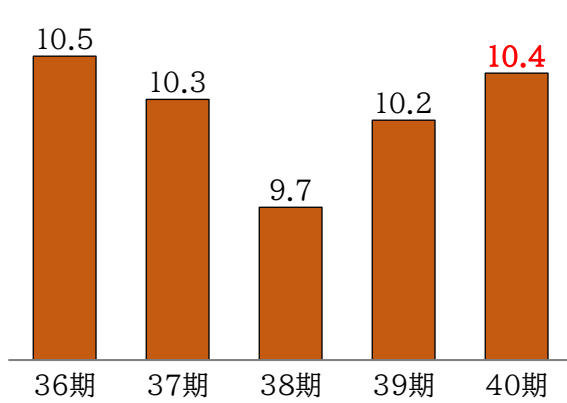
電力：中部電力ミライズ(千kWh)



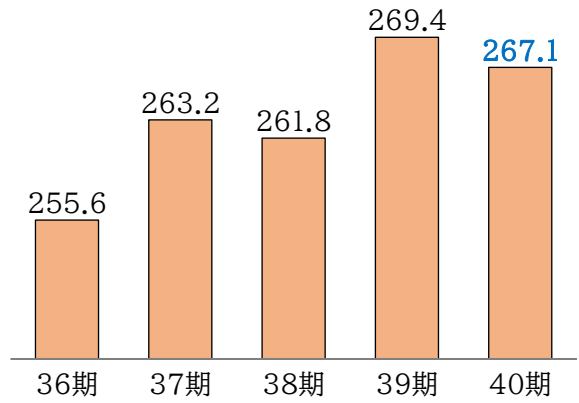
電力：ENEOSでんき (kWh)



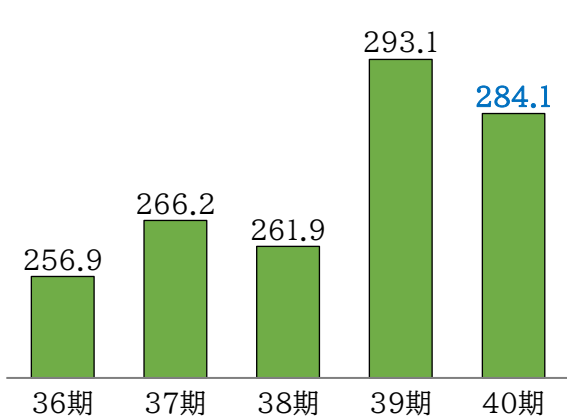
ガソリン (kL)



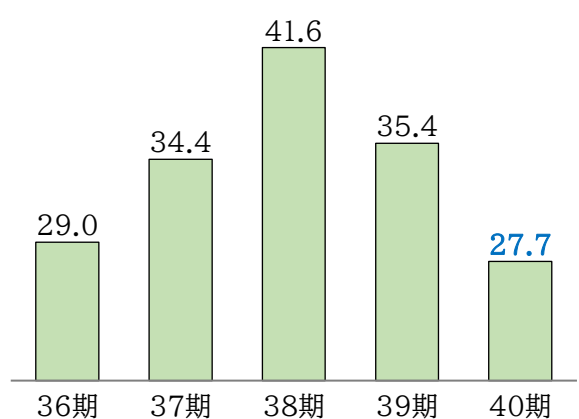
軽油 (kL)

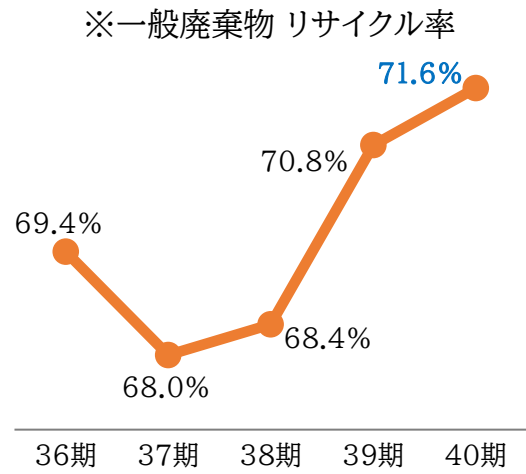
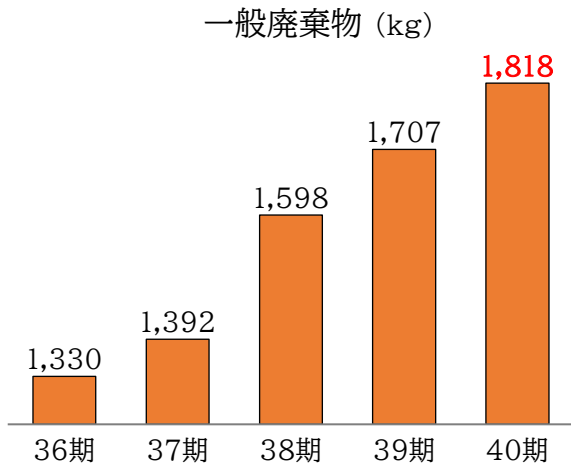


A重油 (kL)

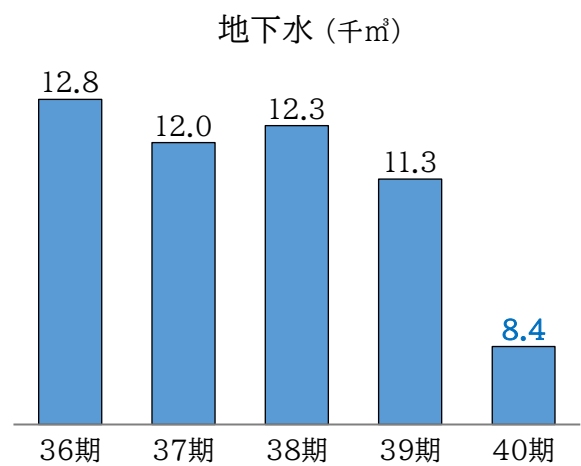
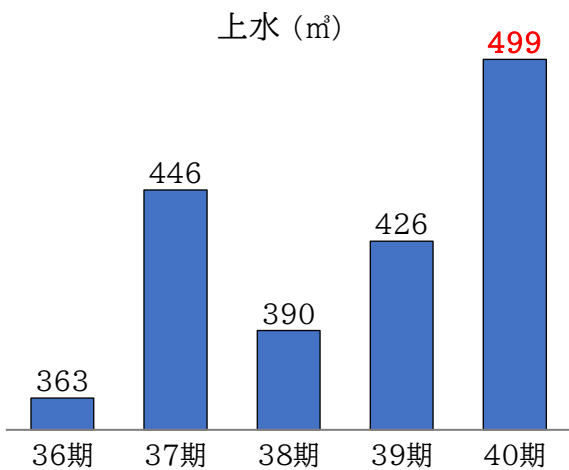
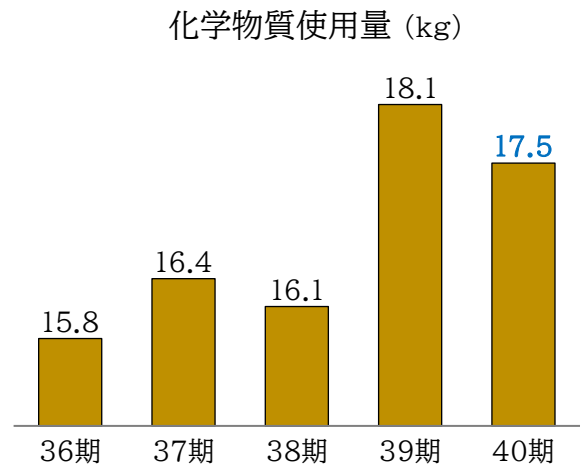
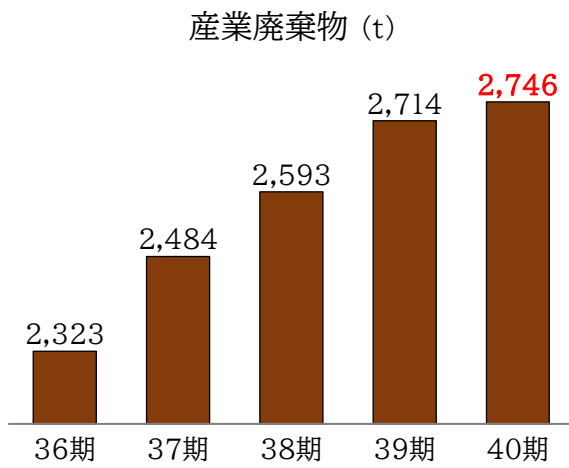


液化石油ガス(LPG) (kg)





※一般廃棄物のうち再資源化される古紙及び溶解書類の割合



6. 環境経営計画の取組結果・評価

1. 第40期 環境経営計画の取組結果・評価

計画に対して目標達成または実行できたものは○、前年対比±5%以内は△、前年対比±5%を超えたものは×と判定した。

<二酸化炭素排出量の削減>

活動内容	結果	評価・次年度の取り組み	
輸送量または距離あたり燃費の向上	△	アイドリングストップやエコドライブの徹底等、各車両の走行データを元に燃費向上に取り組んだが、車両の追加及び猛暑の影響でエアコン稼働率が上昇したため、ほとんどの項目で燃費改善の数値目標は達成できなかった。 (前年対比平均99.1%)	継続
燃料使用量削減			
処理量あたりA重油使用量の削減	○	データ取りをして使用量増加時の原因を特定し改善に繋げる事で削減できた。	継続
処理量あたり高圧電気使用量の削減	○	2HC生産効率や脱水処理効率の向上、恒温槽の稼働時間調整等により削減できた。	継続
電力使用量削減	×	節電呼び掛けやサーキュレーター併用等に取り組む、山梨営業所では削減できたが、本社は南武事務所稼働の影響で大幅に増加した。 (電灯・エアコン使用量:前年対比131.4%)	継続
電灯・エアコン電力使用量の削減			

<業務を通じた環境面での社会貢献>

活動内容	結果	評価・次年度の取り組み	
廃油・廃アルカリ・廃棄物集荷量の増加	△	新規開拓や紹介依頼、営業品目増加に取り組んだが、大口顧客や大口集荷の減少、客先の稼働率低下等により集荷量が減少した。 (前年対比98.4%)	継続
再生重油生産スピードの向上	○	原料の状態に合わせた調節、部品交換、残留物の除去等により生産スピード、処理効率共に向上した。	継続
廃油水処理効率の向上			

<水使用量の削減>

活動内容	結果	評価・次年度の取り組み	
水道水(上水)の使用量削減	×	流水量を絞る、こまめに水を止める等の節水対策を実施したが、汚泥処理量の増加等により上水使用量も増加した。 (前年対比117.1%)	継続
地下水の使用量削減	○	水使用設備の点検により不具合を未然に防ぐ事ができ、削減につながった。	継続

<廃棄物の排出量削減>		
活動内容	結果	評価・次年度の取り組み
一般廃棄物の排出量削減	×	可燃ごみの分別徹底・呼びかけ、会議でのペーパーレス化等を実施したが、人員増及び本社2階事務所・南武事務所稼働の影響で増加した。なお、リサイクル率は年々上昇しており、可燃ごみ分別は社内に浸透してきたと思われる。 (前年対比106.5%)
産業廃棄物の排出量削減	△	ウエス廃棄量の削減等に取り組み、ほとんどの項目で前年より減少したが、汚泥処理量の増加に伴い廃油排水排出量のみ増加した。 (前年対比101.2%)
<化学物質適正管理>		
活動内容	結果	評価・次年度の取り組み
処理量あたりメチルナフタレン使用量の削減	○	(「燃料使用量削減」内「処理量あたりA重油使用量の削減」に準ずる)
<教育>		
活動内容	結果	評価・次年度の取り組み
業務に関わる教育(安全・法令・環境等)の実施	○	作業手順の統一、顧客先の環境事故防止教育や外部研修の受講、課内勉強会や新人教育、技術会議、各種訓練等を実施した。
<法令順守>		
活動内容	結果	評価・次年度の取り組み
法令・環境保全協定の履行改正の確認・周知	○	集荷前の産廃契約確認、法改正により新たに義務化された特別教育(テールゲートリフター等)の受講、課内勉強会等を実施した。
<地域共生>		
活動内容	結果	評価・次年度の取り組み
地域に対する貢献活動の実施	○	定期的な会社周辺清掃の実施、花壇作り、来客や近隣住民への積極的な挨拶、浜松レスリングクラブSSFC様への活動支援、はまはっぴー様への寄贈や活動支援等を実施した。
<見える化・平易化>		
活動内容	結果	評価・次年度の取り組み
設備や手順の表示・工程の見直し、文書の整理等	○	車両管理カード運用、在庫管理表の内容・運用方法見直し、定期作業のマニュアル化、ヒヤリハット共有、構内保全、書庫レイアウト見直し等を実施した。

2. 教育・訓練実績

各委員会活動、社内・外部研修共に実施できた。



漏油訓練
(1月、5月、9月)



防災BCP訓練
(12月、4月、9月)



交通安全 KYT 訓練
(1月、8月、10月)



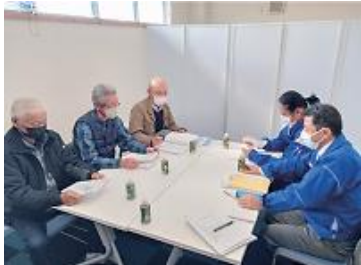
法改正講習
(7月)



年間活動総括
(11月)

- ・避難訓練(毎月)
- ・緊急連絡訓練
(11月、4月、7月)
- ・外部研修…62件参加

3. 地域・社会貢献活動



企業連絡会
(2月)



防災講座
(7月)



地域清掃
(随時)



天星Magazine発行
(年4回)



浜松レスリングクラブ
SSFC様 活動支援
(随時)



はまはっぴー様
活動支援・寄贈
(随時)

4. 環境活動

○森とアースへのECO-プロジェクト賛同 (カーボンオフセット実施)

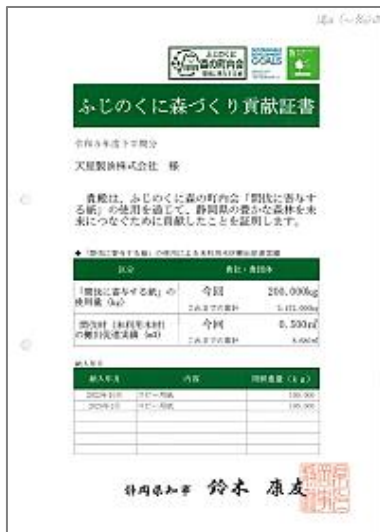
・足寄町

森林バイオマスエネルギー活用事業

・芦別市

木質バイオマス利用促進事業

上記2か所の二酸化炭素排出量削減活動で排出される二酸化炭素を、弊社寄付金で計40t削減する事が出来た。



○ふじのくに森の町内会賛同

間伐に寄与する紙の使用を通じて「静岡県の豊かな森林を未来につなぐ活動」に貢献した。

・令和5年度下半期実績

間伐に寄与する紙の使用量…200kg

(累計3,472kg)

間伐材(未利用木材)の搬出促進実績…0.5m³

(累計8.68m³)

○古着回収事業協力

古着回収事業「OKURUYO BAG」を計3回実施した。

古着の回収を通して、ポリオワクチン寄付、開発途上国や障がいを持つ人への支援に協力した。





○使用済カイロ回収事業協力
社内で使用した使い捨てカイロを回収し、一般社団法人Go Green Japan様へ送付した。
使用済使い捨てカイロの中身を取り出し、水質浄化剤や土壌改良剤としてリサイクルする事業に協力した。

○紙容器等回収事業協力

浜松市西部清掃工場内「えこはま」様にて実施中の使用済紙容器等回収事業へ第39期から継続参加中。
第40期からはアルミ付紙パック回収にも取り組み、段ボールやトイレットパーへのリサイクルに協力している。
・第40期持込量合計…4.11kg



○環境経営レポート展示

浜松市西部清掃工場内「えこはま」様にて毎年夏休み期間中に開催される「地域企業の「環境報告書」展示」へ、Ea21環境経営レポートを弊社の会社案内と併せて展示していただいた。

7. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果、違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

名称	内容	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正保管、委託処理	○
	運搬又は処分を委託する場合の処理基準の遵守(契約書締結)	○
	マニフェストの交付、保管、返却及び交付状況の報告	○
	産業廃棄物収集運搬業又は処分業の許可、変更	○
	産業廃棄物処理基準の順守	○
	特別管理産業廃棄物の収集運搬業又は処分業の許可、変更	○
	産業廃棄物処理施設設置の許可	○
	不法投棄の禁止	○
浜松市産業廃棄物の適正処理に関する条例	事業者、産業廃棄物処理業者の責務	○
	県外産業廃棄物処分協議の状況の確認	○
	産業廃棄物処理状況の報告等	○
大気汚染防止法	施設設置の届出、ばい煙の排出の制限、記録義務	○
水質汚濁防止法	施設設置の届出、排出水の排出の制限、測定・記録及び保存	○
騒音規制法	規制基準値の遵守、施設設置の届出	○
静岡県生活環境保全等に関する条例	騒音基準の遵守義務、特定施設設置の届出	○
消防法	貯蔵・取扱い及び運搬に関する基準・事故の措置等、設置許可	○
浄化槽法	保守点検・清掃、水質検査	○
PRTR法	化学物質の排出量、移動量の届出	○
労働安全衛生法	一定の建築物・機械等の計画に関する届出	○
環境保全協定	住民との協定内容を測定、報告	○
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	○
	第1種フロン類充てん回収業者への委託	○
	第1種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	○
	フロン類の放出の禁止	○
資源有効利用促進法	パソコン等のリサイクル	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務、引き取り業者への引き渡し	○

※評価→○:遵守、△:検討中、×:不遵守

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘及び利害関係者からの訴訟は、過去3年間無し。

3. その他

◆ 立入件数

全7回(浜松市産業廃棄物対策課、浜松市消防局)

指摘事項等は無かった。

◆ 環境コミュニケーション

下善自治会との企業連絡会及び近隣向けの環境アンケートの結果、環境保全協定上の問題及び苦情等は無かった。

8. 環境経営目標

第41期 環境経営目標

目標	40期 (基準値)	41期	42期	43期	44期
二酸化炭素排出量削減 (kg-CO2)	1,608,045	1,286,436 80%以下	1,029,149 64%以下	1,013,069 63%以下	996,988 62%以下
廃棄物排出量削減 (kg)	1,818	一般廃棄物 1,799 99%以下	1,781 98%以下	1,763 97%以下	1,745 96%以下
		産業廃棄物 2,745,560 99%以下	2,718,104 98%以下	2,690,649 97%以下	2,663,193 96%以下
水使用量削減 (m ³)	498.8	上水 493.8 99%以下	488.8 98%以下	483.8 97%以下	478.8 96%以下
		地下水 8,382.2 60%以下	5,029.3 30%以下	2,514.7 29%以下	2,430.8 28%以下
化学物質使用量削減 (kg)	17.5	9.4 54%以下	3.5 20%以下	3.3 19%以下	3.1 18%以下
業務を通じた環境面での社会貢献	顧客満足度の向上、差別化によるシェアの拡大、効率化推進、再資源化の推進、ペーパーレス化等				
地域貢献・社会貢献	環境負荷低減に資する技術や製品の開発、地域活動への参加、グリーン購入の推進等				

第40期から始まった構内工事は第41期前半で完了する。工事完了後、水処理施設の熱源がボイラーからヒートポンプへ切り替わる等の大幅な変更が予定されており、高圧電気は使用量増加、A重油と化学物質(メチルナフタレン)及び地下水の使用量は減少が見込まれる。それらを踏まえて各目標を設定した。

なお、目標は工事進捗や稼働状況に併せて随時確認・見直しを実施する。

9. 環境経営計画

第41期 環境経営計画

目標	担当	活動内容	数値目標 (対40期比)	計画
二酸化炭素排出量の削減	営1	軽油車:輸送量あたり燃費の向上	101%以上	通年
	営2:ローリー	距離あたり燃費の向上	101%以上	通年
	営2:平ボディ	距離あたり燃費の向上	101%以上	通年
	山梨	軽油車:輸送量あたり燃費の向上	101%以上	通年
	営業車使用者	ガソリン車:距離あたり燃費の向上	101%以上	通年
	配送G	デジタコ平均点向上	98点以上	通年
	エコメン	ダンパー車:デジタコ平均点向上	97点以上	通年
	精製課	処理量あたり高圧電気使用量の削減	120%以下	通年
		処理量あたり A 重油使用量の削減	54%以下	通年
	全課	電灯・エアコン電力使用量の削減	105%以下	通年
業務を通じた環境面で の社会貢献	営1	廃油・廃アルカリ集荷量の増加	104%以上	通年
	営2:ローリー	廃油・廃アルカリ集荷量の増加	104%以上	通年
	営2:平ボディ	エレメント回収量の増加	105%以上	通年
	山梨	廃油・廃アルカリ集荷量の増加	108%以上	通年
	精製課	再生重油生産スピードの向上	10kL/h以上	通年
		廃油水処理効率の向上	118%以上	通年
水使用量の削減	全課	水道水(上水)の使用量削減	99%以下	通年
	 全課(*1)	地下水の使用量削減	60%以下	通年
廃棄物の削減	事務課	一般廃棄物の排出量削減	99%以下	通年
	 全課(*2)	産業廃棄物の排出量削減	99%以下	通年
化学物質適正管理	 精製課	処理量あたりメチルナフタレン使用量の削減	54%以下	通年
教育	 全課	業務に関わる教育(安全・法令・環境等)の実施	実施	通年
法令順守	 全課	法令・環境保全協定の履行改正の確認・周知	違反なし	通年
地域共生	 全課	地域に対する貢献活動(周辺清掃等)の実施	実施	通年
見える化、平易化	 全課	設備や手順の表示・工程の見直し、文書の整理等	実施	通年

*1:山梨営業所、事務課は除く *2:事務課は除く

計画は3か月ごとに、一部項目については工事進捗や稼働状況に併せて達成状況や進捗状況の確認・見直しを実施する。

10.代表者による全体の評価と見直し・指示

EV販売が当初予測よりも大幅に失速して縮小、変更が相次ぐ。北米大統領に返り咲いたトランプ氏は石油などの地下資源の利用に積極的だ。一方で、昨年にも増して夏季に高気温が続き地球温暖化を実感する日々が続いた。世界中で異常気象による災害が相次ぐ。環境対策は待ったなしだ。バイオ燃料SAFのニュースも途切れることがなく、生産準備が世界中で進んでいる。人類は、戸惑いながら地球環境という大きな課題に挑戦する。そして、我々一人一人は、マイクロプラスチックのような小さな存在かもしれないが、何ができるかを考え、できる範囲でよいから行動する。

Ea21においては、昨年より環境経営の概念が加わり、より広義の活動となったことを知らなければならない。環境という側面は、営業、生産、労務等といった側面と一体なのだ。

今期、計画が堅実に実行され、特に職場単位の活動が活発でPDCAが回っていることを確認した。社会貢献活動も充実して、広報も工夫がある。41決算期は新設備がいよいよ稼働して、環境面でも大きな改善となる。最近入社の新社員も本活動をよく理解して、行動することを期待する。その責任は本人半分と先輩人々が残り半分である。

2024年11月13日

天星製油株式会社

代表取締役 鈴木宏政